
映画やアニメからみる

「家族の絆」分析とその教材化

第1章 プロジェクト概要

1 プロジェクト名

映画やアニメからみる「家族の絆」分析とその教材化

2 代表者及び構成員

- ・代表者
山口恵未 家庭領域専攻 4回
- ・構成員
山内千尋 家庭領域専攻 4回
本間弘美 家庭領域専攻 4回
石本与恵 教科教育専攻
家政教育専修 1回

3 助言教員

杉井潤子先生（家政科）

4 プロジェクトの目的

3.11 東日本大震災以後、『絆』の重要性がさかんに叫ばれている。しかし、絆をどのように築いて結び合うのか、そのための具体的な方策があるわけではない。わたしたちの生活をふりかえってみても、現代の家族は家族構成員それぞれの個別化がすすみ、家族形態も多様化している。初等および中等での家庭科教育においても、「家族の大切さ」や「家族のために・・・しよう」「家族とともに・・・しよう」という指摘がなされているが、家族関係を学んだり、教えたりすることはとても難しく考えられている。

また、家族教育はいくつかの教科等で行われているが、そのほとんどを家庭科が担っており、家族の多様化やジェンダーの主流化等、現代家族の現実を反映させた内容はほとんどみられない（酒井,2009）。様々な家庭環境をもつ児童・生徒らに現実性を

もった理解をさせるための教材が少ないという現状がある。

そこで、児童・生徒にとって、教科書といった紙媒体に比べてはるかに身近なものである映画やアニメを取り上げて、それらをうまく絆の再発見と再確認のための家族教育に生かせないかと考える。現行の教科書の中でも、映画やアニメがコラムとして概要が小さく取り上げられてはいるが、実際に読んだり見たりする機会はない。なぜならば、その背景には教員自身がその作品を知らず、教材研究する時間がないという現実があるためである。また、描かれる家族もあるべき姿を想定した、両親のそろった核家族や大家族が主である。

以上をふまえて、本研究では、児童・生徒達がみる最近の映画やアニメを、家族の『絆』がどのように描かれているかを分析することによって、多様な家族を想定した映画作品などを教員が教材として用いやすいよう、リストの作成を目的とする。

第2章 内容や実施経過、得られた成果

【調査1】東日本大震災における『絆』調査

3.11 東日本大震災から2年半が経過し、当時の様子や起こった出来事を風化させずに伝えていこうと様々な書籍が出版されている。それらの中から『絆』に関するものを読み、著者にインタビューを行った。また、東日本大震災で被災した宮城県へ赴き、調査を行った。

まず事前調査として、書籍を読んだりインターネットで調べたりしてインタビュー調査への準備をした。

・『震災が教えてくれたこと 津波で家族3人を亡くした新聞記者の記録』（朝日学生新聞社,2012）

・『この言葉を忘れない 3.11 語りつぎたい勇氣と感動のつぶやき』（徳間書店,2011）

・『ともしび 被災者から見た被災地の記録』

(小学館,2011)

・『子どもたちの3.11 東日本大震災を忘れない』(学事出版,2012)

・『つなみ 被災地の子どもたちの作文集』(文藝春秋,2012)

1 著者にインタビュー

① 方法

日時：平成25年9月27日(金)

13:00~14:30

場所：朝日新聞社

今野公美子さんは、東日本大震災による大津波で、仙台市若林区荒浜に住まっていた父、母、妹を亡くされた。自ら著された『震災が教えてくれたこと』(2012)では、ご家族を必死に探される様子が書かれている。

② インタビュー内容

「震災後、家族への思いや考えに変化はありましたか」

—変わっていない気がする。もともとあまり連絡しない家族で、自分も成人していたから。喪失感はある。親戚との関わりが変わった。家族の捜索時には助けてもらったし、付き合いも増えた。親戚を含めた広がりを意識するようになった。付き合いの頻度ではなく、関係性が大事。

「家族とはどんなものですか」

—家族あってこそその自分。自分ははやいうちから自立して当然というかんじで育った。家族の在り方はいろいろで、人それぞれ。

「『絆』とはどういうものだと思いますか」

—『絆』のかたちは人それぞれ。一緒に過ごした時間とコミュニケーションの密度だと思う。今回の震災で、妹の友人との、血のつながりだけでない強い絆を感じるようになった。“家族の”『絆』と強調されることが多いが、過剰評価されていると感じ、違和感がある。家族だけでない広い単位で協力しなければやっていけないのだから、大事にするべきだ。家族だけに注目するのはもったいない。

「“家族”の枠を超えて考えていくとしたら、

どのような方向性があると考えますか」

—きっかけは中学校での講演会后。PTAの保護者へ「自分の子どもの友人との関わりも大事」ということを話したが、ピンときてないようだったので悲しかった。「自分の子どもも、他の子もかわいい」という親が増えてほしい。家族を超え、地域や社会などとのゆるやかなつながりをもったネットワークが形成されていけばよいと思う。

2 語り部タクシー

① 方法

日時：平成25年9月28日(土)

10:00~17:00

場所：仙台市若林区荒浜～南三陸町(総合防災庁舎,志津川中学校,戸倉中学校,復興商店街)～石巻市(大川小学校,相川小学校)

語り部タクシーの瀬戸さんは、七ヶ浜に住まわれていた方で、実際に津波にあわれ、家の1階部分を流されてしまったという。

② インタビュー内容

もともと漁業が盛んで地域のつながりは強かったという。震災当時、瀬戸さんはたまたま仕事が休みで家にいて地震発生直後に母と妻、近所の方を連れて役場まで逃げたそうだ。

震災後に変わったこととして、何かに守られ生かされていると感じるようになったそうだ。瀬戸さんは親戚を11人亡くされたが、自分の家族は全員助かり、無事であることは当たり前のように当たり前ではないのだとおっしゃっていた。

3 考察

震災後、『絆』という言葉がマスメディアを中心に多く使われ、“家族の絆”が強調されるようになってきている。今回の調査でも、家族の『絆』についてのお話を聞けると考えていた。しかし、家族という小さい集団に限定せず、近所の人や親戚、友人知人、地域や社会など、多様な人々とのゆるやかなつながりにおける『絆』の大切さ、ネットワーク形成の重要性について学んだ。

【調査 2】映画で描かれる多様な家族像の調査

小・中・高校の家庭科教科書内で扱われている映像作品をあげてみた。

- 高校 技術・家庭 家庭分野（教育図書）
 - ・アニメ「あたしんち」
 - ・アニメ「ちびまる子ちゃん」
 - ・アニメ「毎日かあさん」
 - ・アニメ「ご姉弟物語」
- 高校 家庭基礎（開隆堂）
 - ・映画「東京物語」
 - ・映画「家族ゲーム」
 - ・映画「重力ピエロ」
- 高校 家庭基礎（東京書籍）
 - ・アニメ「クレヨンしんちゃん」
 - ・アニメ「ちびまる子ちゃん」
 - ・アニメ「サザエさん」

ほとんど、両親のそろった核家族や拡大家族を扱っている現状があった。

また、「映画の中の家族・家庭は、時代により描かれ方が変化している。」と高校家庭基礎（開隆堂）の中で書かれている。家族の形態が多様化している現在、フィクションである作品の中で、家族がどのように描かれているのかを検証する。そして、家庭科の家族の単元の中で、多様な家族を教える際に教材としてどのように使用できるのかを考える。

1 方法

インターネット等で、プロジェクトの目的に沿う内容の映画を選出した。以下、あらすじに示した通り、各映画の中では、様々な家族のかたちが描かれている。これらの作品は学校教育において家族の多様性や家族との関わりについて考える上で重要な視点を持っていると考える。教材化を提案する上でも必要な資料となり得る。

- ① 「映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ！オトナ帝国の逆襲」[DVD]

あらすじ：21世紀初頭、昭和の様々なものが

再現されたテーマパーク「20世紀博」が開催される。しんのすけの両親達大人はテーマパークを楽しみ、20世紀を懐かしがる。そして、あるテレビ放送を見た大人達は突然人が変わり、子供たちのことを忘れて、20世紀博へと向かい、町から大人がいなくなる。しんのすけ達は家族を取り戻すために20世紀博へと向かう。特に前半はギャグが多めで子供向け、後半は「20世紀からの脱却」、「家族の絆」に重点が当てられ、大人向けになっている。

主要登場人物：父・母・長男・長女・ペット(犬)

② 「うさぎドロップ」[DVD]

あらすじ：27歳独身のダイキチは、祖父の葬式に出席するため久しぶりに帰省する。彼はその席で6歳の少女りに目を留めるが、何と彼女は祖父の隠し子だということで親族一同がパニックに陥ってしまう。ダイキチは施設に入れられそうになっていたりんをふびんに思い、つい自分が彼女を引き取って育てると言ってしまう。こうして一緒に暮らすことになった6歳の少女と男が**家族としての関係を築いていく**。

主要登場人物：男・少女

③ 「HOME 愛しの座敷わらし」[DVD]

あらすじ：家でも会社でも居場所がない晃一を中心に、それぞれが悩みや不満を抱えている高橋家の5人は、晃一の転勤で岩手の築100年以上の古民家に引越す。田舎暮らしにも慣れてきたある日、着物を着た不思議な子どもにも会う。それぞれが自身を見つめなおし、**家族のきずなを再生していく姿を描く**。

主要登場人物：父・母・長女・長男・祖母

④ 「おばあちゃんの家」[DVD]

あらすじ：母親と2人でソウルに住む7歳の少年サンウは、失業中の母親が新しい仕事を見つけるまでの間、田舎の祖母の家で過ごすことになる。初めて会った祖母は、読み書き

ができず口も利けない。サンウは祖母をバカにして、不自由な田舎の生活に不満を爆発させわがままのし放題。しかし、祖母は決して叱らず、サンウの願いを叶えようと無条件の愛情を注ぐ。やがてサンウの心も次第に変化してゆく。**祖母と孫の心の交流**を描く。
主要登場人物：祖母・息子・(母)

⑤ 「アナザー・ハッピー・デイ ふぞろいな家族たち」 [DVD]

あらすじ：リンは長男の結婚式のため、現在の家族を連れて久しぶりに実家に戻る。**反りの合わない家族**に会うのは憂鬱だったが、おめでたい席でなら“家族”に対するわだかまりを忘れられるのではないかと期待していた。しかし、リンや元夫ポール、母ドリスら、自分のことばかりを主張する彼らはお互いへの不満を募らせたまま、やがて結婚式当日を迎える。
主要登場人物：女性、現在の家族、元夫、息子、母、父 等

⑥ 「夏の庭～The Friends～」 [VHS]

あらすじ：小学6年生の少年3人は、人の死に興味を抱き、近所の老人・喜八に目をつけ、彼がどう死ぬのか見張ることに。自分を観察する3人に気づいた喜八は、最初は怒るが、やがて**4人の交流**が始まる。子供たちは喜八から、ある女性と結婚していたが別れたという話を聞く。3人は喜八の元妻を探し出すことにし、やがてそれらしき人を探し当て老人ホームを訪ねるが、部屋には担任の先生がいた。先生は女性の孫だった。女性は、夫は死んだと答えるだけだったが、先生は、喜八は自分の祖父に違いないと確信、彼を訪ねる。
主要登場人物：男性、元妻、孫

⑦ 「サマー・ウォーズ」 [DVD]

あらすじ：主人公・健二は、天才的な数学力を持つ少年。高2の夏、憧れの先輩、夏希に

「フィアンセのフリをする」というアルバイトを頼まれる。連れて行かれた彼女の田舎、そこにいたのは総勢27人の大家族。夏希の曾祖母・栄は、室町時代から続く戦国一家の当主であり、一族の大黒柱。栄の誕生日を祝うために集った個性豊かな「ご親戚」の面々。健二は強引に頼み込まれ、数日間滞在することに。その夜、彼の携帯に謎のメールが届く。健二はその解読に夢中になるのだが、翌朝、世界は大きく一変していた。健二を騙る何者かが、世界を混乱に陥れていたのだ。**栄の号令のもと、健二と夏希、そして陣内家の面々が、一致団結**して世界の危機に立ち向かう。
主要登場人物：曾祖母、親戚たち、曾孫、曾孫の後輩

⑧ 「そして父になる」 [映画]

あらすじ：学歴、仕事、家庭、自分の望むものを自ら掴み取ってきたエリート会社員・良多。自分は成功者だと思っていた彼のもとに、病院から連絡が入る。それは、妻・みどりとの間の子が取り違えられていたというものだった。6年間愛情を注いできた息子が他人の子だったと知り、愕然とする良多とみどり。取り違えられた先の齋木一家と会うようになり、**血のつながりか、愛情をかけ一緒に過ごしてきた時間か、良多らの心は揺らぐ**。
主要登場人物：野々宮家(父、母、息子)、齋木家(父、母、息子2人、娘)

2 結果及び考察

リスト参照。

第3章 結論

インタビューを通して、「家族」の在り方は人それぞれにいろいろであること、『絆』とは人と人とのつながりで、一緒に過ごした時間やコミュニケーションの密度によるもので、これも人それぞれであることがわかった。そして、震災時、血のつながりだけでない強い

『絆』を感じ、家族だけでない広い単位で協力しなければやっていけないということ、大切にしていけるべきであるということを感じたそうである。「家族」の枠にとらわれることなく、いかに「家族」の枠を超えた人と人とのつながりがもてるかが重要である。

そして、検証した作品には、育児をする父親や育児休暇制度、ワーク・ライフ・バランス、シングルマザー（ファザー）、家族のつながりなど、現代の多様化している家族像を反映させた多様な家族が描かれていた。両親がそろっている核家族や拡大家族を取り上げて一般化した「家族」を教えるのではなく、多様な家族像があっという間、それをふまえ

て自分の家族のことを振り返り、家族のなかで子どもたちができることを考えていくことができればよいと思う。また、家族に関わる作品紹介は高校家庭科の教科書の中で、コラムとして小さく載っているだけの現状がある。小・中学生を対象に、今回取り上げた作品などを用いて「家族」について考える授業づくりの一助になれば幸いである。

なお、取り上げた DVD と VHS は本大学付属図書館に所蔵されているので、多くの人に活用していただくことを望む。

〈参考文献〉

「改訂学習指導要領にみる家族の教育」酒井はるみ、家族社会学研究 Vol.21 no.2 2009

作品名	対象	指導要領該当箇所
①「映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレツ！オトナ帝国の逆襲」 [DVD]	小	A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。
	中	A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2)イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 (3)ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。
	高(基礎)	(1)ア 青年期の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育 (2)カ 生涯の生活設計
	高(総合)	(1)イ 家族・家庭と社会 (2)ア 子どもの発達と保育・福祉 (5)イ ライフスタイルと生活設計
②「うさぎドロップ」[DVD]	中	A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 (3)ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。 エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。
	高(基礎)	(1)イ 子どもの発達と保育 エ 共生社会と福祉 (2)カ 生涯の生活設計
	高(総合)	(1)イ 家族・家庭と社会 (2)ア 子どもの発達と保育・福祉 (5)イ ライフスタイルと生活設計
③「HOME 愛しの座敷わらし」 [DVD]	中	A(1)ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 C(2)ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。
	高(基礎)	(1)ア 青年期の自立と家族・家庭 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉 (2)ウ 住居と住環境

	高(総合)	(1)ア 人の一生と青年期の自立 イ 家族・家庭と社会 (2)イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域 (4)ウ 住生活の科学と文化
④「おばあちゃんの家」[DVD]	中	A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。
	高(基礎)	(1)ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉
	高(総合)	(1)ア 人の一生と青年期の自立 (2)イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域
⑤「アナザー・ハッピー・デイ ふぞろいな家族たち」[DVD]	中	A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。
	高(基礎)	(1)ア 青年期の自立と家族・家庭 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉
	高(総合)	(1)ア 人の一生と青年期の自立 イ 家族・家庭と社会 (2)イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域
⑥「夏の庭～The Friends～」[VHS]	中	A(2)ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 C(2)ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。
	高(基礎)	(1)ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉 (2)ウ 住居と住環境
	高(総合)	(2)イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域 (4)ウ 住生活の科学と文化
⑦「サマー・ウォーズ」[DVD]	中	A(2)イ これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 D(1)ア 自分の家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。 イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。
	高(基礎)	(1)ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉 (2)エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 カ 生涯の生活設計
	高(総合)	(1)イ 家族・家庭と社会 (2)イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域 (3)イ 消費行動と意思決定 ウ 消費者の権利と責任
⑧「そして父になる」[映画]	高(基礎)	(1)ア 青年期の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育
	高(総合)	(1)イ 家族・家庭と社会 (2)ア 子どもの発達と保育・福祉